

平成 30 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成30年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	①活かせる学力の育成  ②多様な学びの場の提供	①基礎基本を主体とした、上級学校や社会生活での「活かせる学力」の育成に向けた授業の展開と教育課程の見直しを図る。  ②「通級による指導」の導入と実施をスムーズに行い、対象生徒の要望に応える。	①共通テーマとICT機器利活用による授業研究会の実施と各教科会による取組の発表とまとめを行う。  ②保護者・生徒と共に「個別の支援計画(支援シート)」、「個別の指導計画」を作成する。	①「生徒による授業評価」 「魅力と特色ある県立高校づくりアンケート」の回答で満足度が、上昇したか。  ②「個別の支援計画(支援シート)」、「個別の指導計画」にもとづき、生徒の実態を踏まえた効果的な指導ができたか。
2 生徒指導・支援	①部活動活性化  ②人間性・社会性豊かな人づくり	①部活動の問題点・課題点を把握し、解決と加入率アップに向けた方策の検討を行う。  ②規範意識の醸成といのちや他者とのかかわりを大切にする心の育成を図る。	①年間複数回の部活動加入キャンペーンの実施。  ②全ての教育活動において時間厳守を励行し遅刻指導を徹底する。生徒の実態に応じてコミュニケーション能力向上等に向けた各種教室・講演会を開催する。	①学校全体で加入率増加の為の意見交換ができたか。部活加入率が65%となったか。  ②遅刻者年間延べ人数が10,000名以下(2割削減)になったか。生徒の実態に応じた各種教室・講演会を開催できたか。
3 進路指導・支援	進路発見と進路実現	第一志望の選択能力の育成と豊かな進路実現をサポートする。  インターンシップへの積極的参加を促し、広い視点から進路を発見できるよう内容の充実を図る。	実力診断テスト等により職員、生徒それぞれの成績分析会を実施する。  総合的な学習の時間等で職業理解・勤労観を養い、インターンシップを積極活用するよう取り組む。	指定校やAO入試の応募状況と進学先の分析を行ったか。  昨年度に比べてインターンシップ参加者が10名以上増えたか。
4 地域等との協働	地域教育力の活用	地域の中学校や大学と協働し、3年間の枠組みを超えた視点で教育活動を捉える機会を作る。  社会の一員として意識できるよう、防災活動などの地域連携の行事に参加する。	近隣中学校と、授業及び学校行事の相互見学を行い、意見交換をする。  地域との防災活動に参加できるように生徒の意識を高めるような取り組みを行う。	多数の職員が、校内及び近隣中学校との相互見学や意見交換の機会を複数回活用したか。  防災活動などの地域連携の行事に参加できたか、地域と協働した行事ができたか。
5 学校管理 学校運営	①教育環境の整備  ②事故・不祥事ゼロの取組	①周年事業に引き続き教育環境等を整える。安全衛生に配慮した整備を行う。また、生徒状況に合わせて、通級に関する施設整備を行う。  ②職員一人ひとりが、事故・不祥事防止を自らの問題として認識し、事故・不祥事の未然防止に取り組む。	①学習や部活動に支障が出ないように環境整備に努める。トイレ衛生や教室、体育施設の安全面を改善・改修する。  ②グループ主催で、事故・不祥事防止研修会を開催する。正確な点検作業を行う。	①教育環境やトイレ等の衛生状態について、改善されたか。生徒アンケート等により検証する。  ②各グループ、事故・不祥事防止研修会を開催できたか。正確な点検作業を行えたか。